

# 令和4年度 第1回 青少年問題協議会記録

1 日時 令和4年6月2日(木) 9:30～11:00

2 場所 市教育総合センター 青年会館 3階 第一・二・三研修室

## 3 出席者

(委員 17人)

上谷委員、帖佐委員、日高委員、渡邊委員、大脇委員、日高委員、海江田委員、鶴田委員、川元委員、廣瀬委員、春田委員、石原委員、新穂委員、新小田委員、高野委員、山下委員、中村委員

(幹事 8人)

東幹事、堀田幹事、重久幹事、児玉幹事、重久幹事、池田幹事、山下幹事、吉元幹事

## 4 会順

### (1) 委員紹介

名簿に従って紹介

### (2) 会長、副会長選出

立候補者がいなかったため、事務局案が出される。

【事務局案 会長：上谷委員、副会長：飯干委員】→承認

### (3) 開会のあいさつ

### (4) 協議

- ① 青少年問題協議会の設置等について
- ② 前年度協議内容について
- ③ 令和4年度青少年健全育成に関する主な施策等(案)について
- ④ 令和4年度の協議テーマ(案)について
- ⑤ 専門委員会の設置(案)について
- ⑥ 令和4年度青少年問題協議会の会議計画(案)について
- ⑦ その他(情報・意見交換)

### (5) 閉会のあいさつ

## 5 協議内容

### ① 青少年問題協議会の設置等について

(事務局)

資料に基づき説明。

### ② 前年度協議内容について

(事務局)

資料及びリーフレットを用いて説明。

### ③ 令和4年度青少年健全育成に関する主な施策等（案）について

(事務局)

資料に基づき、説明。

(委員)

子どもが役割をもって行うことは大切である。今年度は実態調査をする予定である。まずは、ヤングケアラーについて理解を深めることが必要である。社会全体として正しく理解することは重要である。項目の中に入れることができないか。

(事務局)

今回は、幹事会を受け文言を修正した所である。子どもの家庭での居場所作りとのバランスが大切であると考え、今後周知していくことが必要であることから、協議の項目に入れていきたい。

(委員)

主な施策において、昨年度と違う点はあるのか。また、コロナに対応するものとして施策の中に入れられているのか

(事務局)

主な施策については、変更はない。重点事項については、いくつか変更したところはある。コロナ禍の対応に関しては、リーフレットに反映させている。

(座長)

それでは、③令和4年度青少年健全育成に関する主な施策等については、事務局の説明のとおり進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。→承認

### ④ 令和4年度の協議テーマ（案）について

(座長)

引き続き④の「令和4年度の協議テーマについて」と⑤の「専門委員会の設置について」事務局から説明を受け、委員の皆様からの質疑をお願いしたいと思います。

この2点は、令和4、5年度のテーマに関わる協議になります。

なお、本年度は、テーマ設定の1年目にあたり、今回の協議会での委員の皆様の意見等を参考にして、専門委員会等で調査・研究を進め、提言等（メッセージ）の案をいただくこととなります。

鹿児島市の青少年の健全育成をどのように進めていけば良いのか活発なご意見を伺えたらと思いますのでよろしくお願いします。

(事務局)

資料に基づき、説明。

### ⑤ 専門委員会の設置（案）について

(事務局)

資料に基づき、説明。

(座長)

今、令和4年度の協議テーマや専門委員会の設置（案）について説明がありました。質疑を含めた形で進めていきたいと思えます。ご意見・ご質問はないでしょうか。

(委員)

(協議テーマの文言について) コロナをすでに経験しているため、提言は遅くなるのではないかと。

(委員)

(協議テーマの文言について) ウイズコロナ、アフターコロナに向けてできる取組ではなくて、健全育成に向けた取組という捉え方が大切である。文言の調整が必要ではないかと考える

(座長)

(協議テーマの文言について) コロナ禍という捉え方、感染者は減少している。このような状況をどのように捉えるのか、変わるのか、変わらないのか、分からない部分があるため文言が難しい。文言の整理をお願いしたい。

(座長)

現状はどのような状況なのか、また、現状にどのような考えを持たれているのか、をそれぞれの立場から知り得ている情報があれば教えていただきたい。

(委員)

制限のない教育活動に取り組んでいる。登下校のマスク着用について考えている。熱中症予防のこともあり、距離があればマスクを外しても構わないという通知がある。地域の方々の協力を得ながら進めている。小学校の場合は、地域の見守りは有難く感じている。子どもたちが楽しく、元気に、これからの生活に夢を持てるような取組を行いたい。

(座長)

様々な状況に応じた対応が必要であると考えます。マスク、距離のとり方についても何かあれば教えていただきたい。

(委員)

行事等を制限してきた。修学旅行については、感染症対策を厳に行いながら、今年度は県外に行った。現在、保護者からの相談事や生徒間のトラブルが多くなってきた。これは、コロナによる制限に起因する部分もあると考えます。

(座長)

話し合う機会を増やしていくことは大切であると考えます。

(委員)

学校では感染拡大防止のための取組を行っている。マスクを着用して多くの人間が集まるのは、現状としては難しい。子どもたちの生活には制約が課されている。そのような中でも少しずつ緩和され、工夫しながら、昨年度できなかったことも少しずつできるようになってきた。また、常時マスクを着用しての学校生活は、生徒の心に影響を及ぼしていると考えます。自分も子どもの顔を覚えられなかったり、感情を読み取れなかったりする。現在では、不安があれば休むようになっている。コ

コミュニケーションの機会、生徒の内面の悩み等をどう捉えていくのかを考え、取り組んで行く必要がある。

(座長)

マスク生活も3年目。大学でも工夫しているが、なかなか厳しいと考えている。地域の様子はどうか。

(委員)

家庭訪問を行っても、面談をすることができず、メッセージを入れるだけであった。お茶を飲みながらの談笑もできなかった。今年度は少しずつ面談ができるようになってきた。病気になられる方も多くなってきたように感じる。

(委員)

昨年度は、規模を縮小しながら、キャンペーン活動を行った。今年度も引き続き感染対策に留意し、大人数は控えながら、行っていきたい。高齢者施設では、ワクチン接種をできない方もおり、高齢者が感染する可能性があるため、対策の必要がある。

(委員)

SNS絡みの犯罪が多くなってきており、社会問題となっている。犯罪抑止に取り組んでいきたい。児童虐待については、面前DVも大きな問題となってきている。少年法が改正され、実名報道が可能となった。成人に対する事件対応が大きく変わってきている。

(委員)

小学校と中学校ではSOSミニレターに取り組んでいる。レター用紙を配布し、様々な悩みを拾い上げている。ミニレターについては、コロナ禍においても変わらない。その問題に至るまでの背景についてはコロナの影響を受けている。

(委員)

大学では、感染者が出るとオンライン授業を行ってきた。今年度からは、なるべく平常どおりで行っており、対面で行っている。本年度からはウイズコロナを感じる。昨年度は特に退学率がやや増加し、理由としては「楽しくない」ということがある。授業はできるが、その他の学生の充実感を感じることができるようなサポートをできればと考える。

(委員)

マスク着脱について、鹿児島市教委はどのように対応されたのか。5月1日～15日の市全体の感染者を占める10代以下の割合は35%と発表され、小学校では77%、中学校では67%の学校が感染があったとの報道があった。市の小中学校では、今後どのように取り組んでいくのか。また、小中のワクチン接種率はどの程度か。

(事務局)

現在、本市の学校におけるマスク着用の考え方については、現在の「学校衛生管理マニュアル」に示す内容から変更はない。十分な距離が確保できる場合や体育の授業ではマスクの着用は必要ない。熱中症が心配される場合はマスクを外す。今回、基本的対処方針が変更されたことについては、5月25日に各学校に周知を行って

いる。今後、国からの方針が示されればそれに基づいて行う。ワクチン接種率については、把握できていない。

(座長)

専門委員会の設置についての質問等はないか。ないようなので、案のとおり進めてもらいたい。協議題は文言を変更して行っていくということで承認いただきたい。→承認、変更については事務局から連絡をもらいたい。

## ⑥ 令和4年度青少年問題協議会の会議計画（案）について

(事務局)

資料に基づき、説明。→承認

## ⑦ その他（情報・意見交換）

(事務局)

コロナ禍における人間関係が難しく、様々な影響が考えられる。感情が読み取れない、そのようなスキルが育たない子もいるだろうと考える。今後、事務局でも文言整理等を行いながら進めていきたい。

(座長)

委員の皆さんから貴重なご意見や取組の状況等についての紹介もあり、大変意義のある協議がなされたと思います。これで協議を終わります。